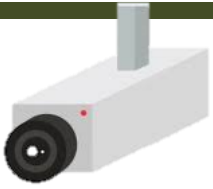


セーフコミュニティ再認証事前指導(H29.10.23)のプレゼンにおける  
海外審査員からの助言、指摘事項と対応方針(案)について

【防犯対策委員会】

	助言、指摘事項等	対応方針(案)
1	「セキュリティ」がメインになっているので、「セーフティ」の面をもっと大切にしては。	審査員は、「セキュリティ:窃盗などの犯罪が起こらないよう、環境整備やパトロールを行うこと」「セーフティ:犯罪によるケガを防ぐこと」というイメージで発言か。(殺人や暴行、傷害などによる身体的な被害への対応) 殺人や暴行等の凶悪事件が多い国では、SC の取り組みとして「セーフティ」の対応をあげているため、久留米市でも必要ではないかという発言になっているのではないかと推測。
2	凶悪犯や粗暴犯に関する整理が必要では。(なぜ凶悪犯より自転車盗の対策を優先するのか)	プレゼン資料 P6 とおり、久留米市では、凶悪犯罪を増やさないために、自転車の盗難防止(セキュリティ)に取り組むという整理をしており、防犯パトロールやカメラ設置などの取り組みも同様の考えに基づく。 ■プレゼン資料:修正なし ※認証申請書に諸外国との比較(例:殺人)を掲載し、主にセキュリティに取り組む説明とする。
3	性犯罪のデータを整理し、その対応等の説明があるといいのでは。	警察との連携により、性犯罪等の発生等が多いエリアを街頭防犯カメラ設置の候補地として進めている。 ■プレゼン資料:修正なし ※口頭説明で補足(プレゼン資料 P22)
4	自殺対策委員会との連携も検討しては。	ニセ電話の被害に遭ったあと自責の念により自殺する事例をゲートキーパー講習で周知するなど、調整していきたい。 ■プレゼン資料:修正(スライド P32 追加)
5	取り組みの成果が表れているので、その情報を市民と共有できれば安心感が高まるのでは。	現在の啓発活動は、被害の手口や予防方法をメインに周知しているが、それと同時に取り組みの成果も発信できるよう見直しを図る。 ■プレゼン資料:修正(スライド P32 追加)



# 久留米市セーフコミュニティ 防犯対策委員会



発表日 2018年7月 日  
発表者 防犯対策委員会委員長 猪飼 廣幸  
所 属 久留米防犯協会連合会

# 1.防犯対策委員会の構成メンバー（2017年現在）

区分	NO.	所属
関係団体	1	久留米市老人クラブ連合会
	2	久留米市防犯協会連合会
	3	うきは防犯教会田主丸支部
	4	久留米市校区暴力追放推進協議会連絡会議
	5	久留米市校区まちづくり連絡協議会
	6	久留米男女共同参画推進ネットワーク
	7	久留米市中学校長会
	8	久留米市小学校長会
	9	久留米市小・中学校PTA連合協議会（中学）
	10	久留米市小・中学校PTA連合協議会（小学）

区分	NO.	所属
関係団体	11	久留米市校青少年育成協議会連絡会議
	12	久留米市商工会議所女性会
	13	文化街さくら会
警察	14	久留米警察署（生活安全課）
行政機関	15	久留米市子ども未来部
	16	久留米市都市建設部
	17	久留米市教育部
	18	久留米市協働推進部
	19	久留米市協働推進部

＜委員構成の見直し＞ 久留米市老人クラブ連合会を追加(2016年)  
 ※高齢者を狙った特殊サギ等の多発に対応

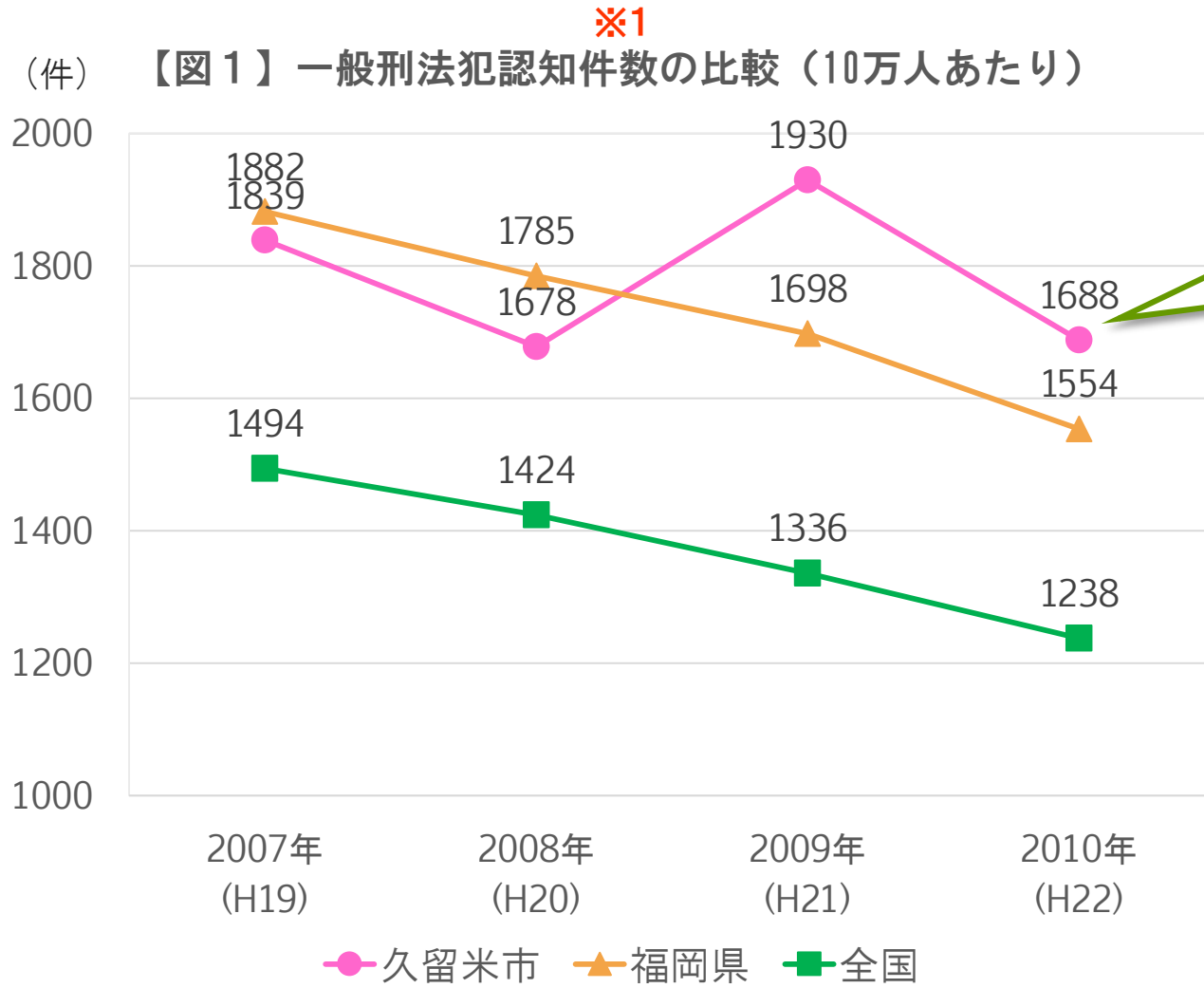
# 1.防犯対策委員会の開催経過(認証後)と主な議題

回数	開催日	主な協議事項
第10回	2014.6.27	具体的な取り組み(施策)の進捗、今後の取り組み方針
第11回	2014.10.27	年間活動報告、進捗状況、セーフコミュニティフェスタ
第12回	2015.4.24	指標の見直し、2014年度取り組み実績、2015年度取り組み方針
第13回	2015.9.16	全市一体となった啓発・裾野拡大の取り組み、セーフコミュニティフェスタ
第14回	2016.4.19	2015年度取り組み実績、2016年度取り組み方針 これまでの取り組みに関する効果確認・改善
第15回	2016.12.14	具体的施策の検証
第16回	2017.4.24	2016年度取り組み実績、2017年度取り組み方針 再認証事前指導のプレゼン資料 ケガや事故の実態調査
第17回	2017.7.19	再認証事前指導のプレゼン資料、セーフコミュニティフェスタ
第18回	2018.4.16	再認証本審査、2017年度取り組み実績、2018年度取り組み方針

# 2-1.防犯対策委員会の設置の背景

## ★客観的データ

<2011年取り組み開始時>



当時  
長期的には減少傾向にあるものの、  
2009年は認知件数が増加  
**国や県と比べ、高い水準**

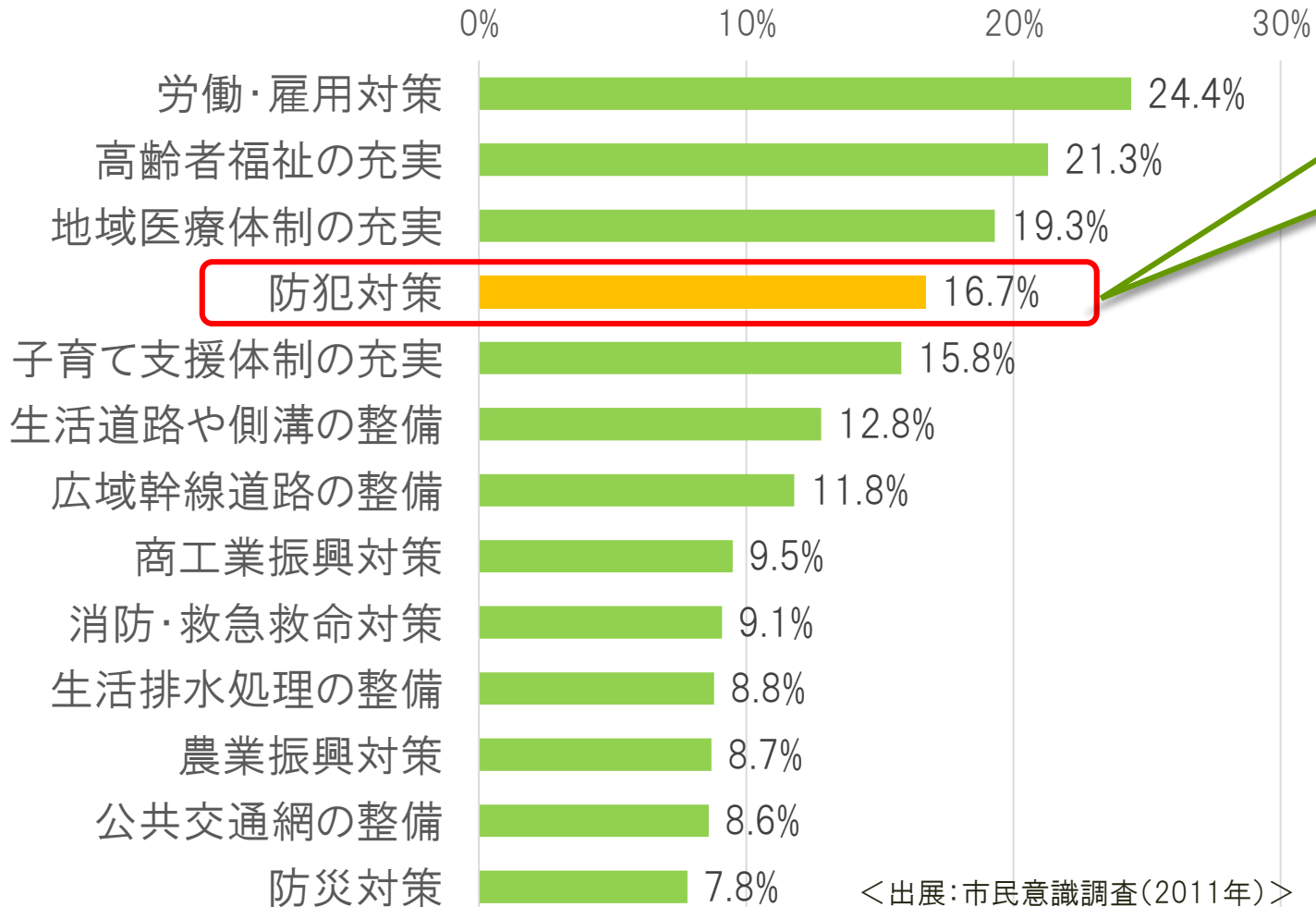
犯罪を減らすため  
取り組みの強化が必要

**セーフコミュニティで  
犯罪の予防を！**

<出展:警察統計>

## 2-2.防犯対策委員会の設置の背景

【図2】行政への要望で特に力を入れてほしいもの



## ★主観的データ

<2011年取り組み開始時>

当時  
「防犯対策に力を入れてほしい」  
行政施策33項目のうち、**第4位**

市民の要望意識は高く、  
**犯罪を不安に感じている！**

**犯罪の予防・防犯力の向上で  
市民の安心感が高まる！**

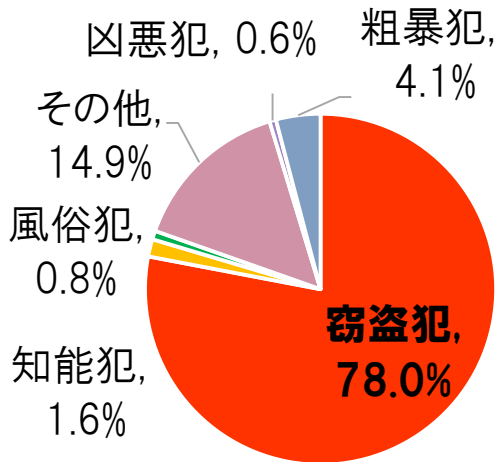
**2012年(H24)3月  
防犯対策委員会設置**

# 3-1.問題の整理（2011年 取り組み開始時）

## 犯罪の状況（自転車盗が多発）

市民の日常の行動範囲内で発生する“街頭犯罪” ※2

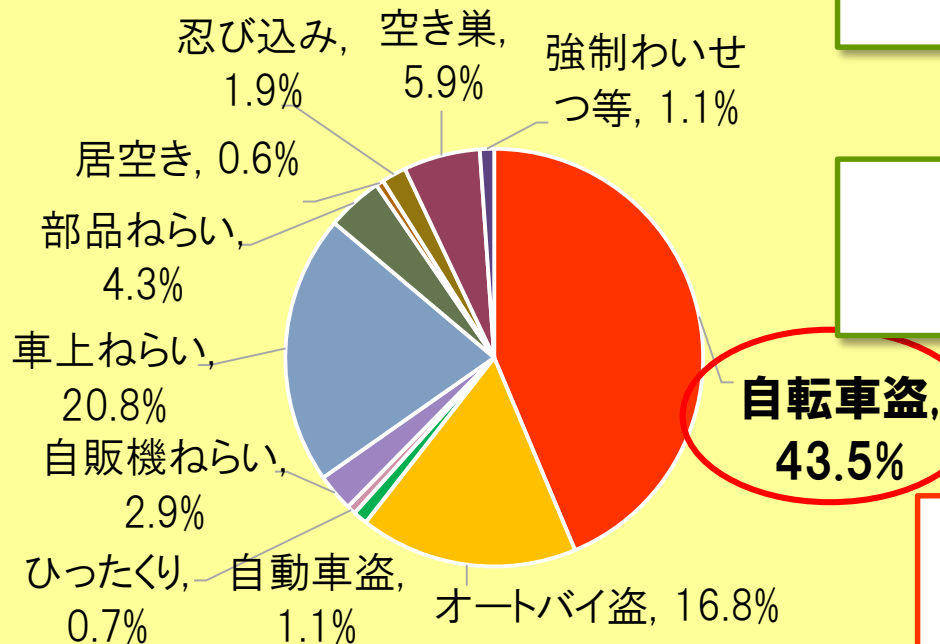
【図3】一般刑法犯認知件数の内訳



凶悪犯や粗暴犯の発生率は低く、多くは窃盗犯

<出展：警察統計>

【図4】街頭犯罪の内訳



「自転車盗」が多発！  
市内において最も身近に起こりうる犯罪

認知されているものだけで、1日に約3件被害届が出されないものも相当な数と推測  
<軽微な犯罪という認識？>

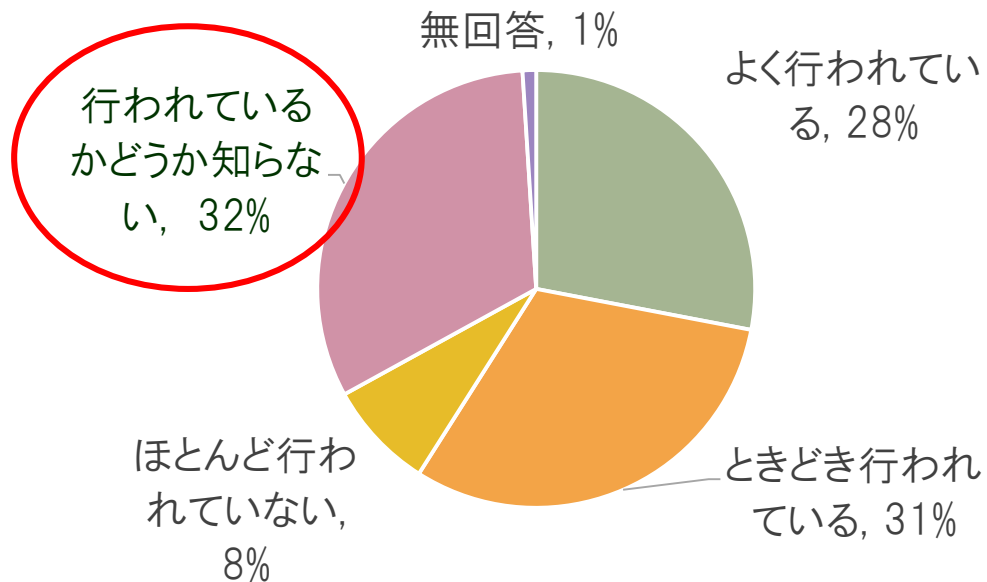
割れ窓理論 ※3

自転車盗の放置が凶悪犯罪を誘発する危険性

## 3-2.問題の整理（2011年 取り組み開始時）

### 地域社会の連帯感の希薄化

【図4】地域で自主的な活動  
(防犯、交通安全)が行われているか



<出展:市民意識調査(2011年)>

地域活動に対する無関心

地域内で目が行き届かない  
住民間で情報が共有できない  
地域内の違和感、不審者に気付かない

入りやすく、見えにくい  
犯罪が成功しそうな場所・状況・雰囲気

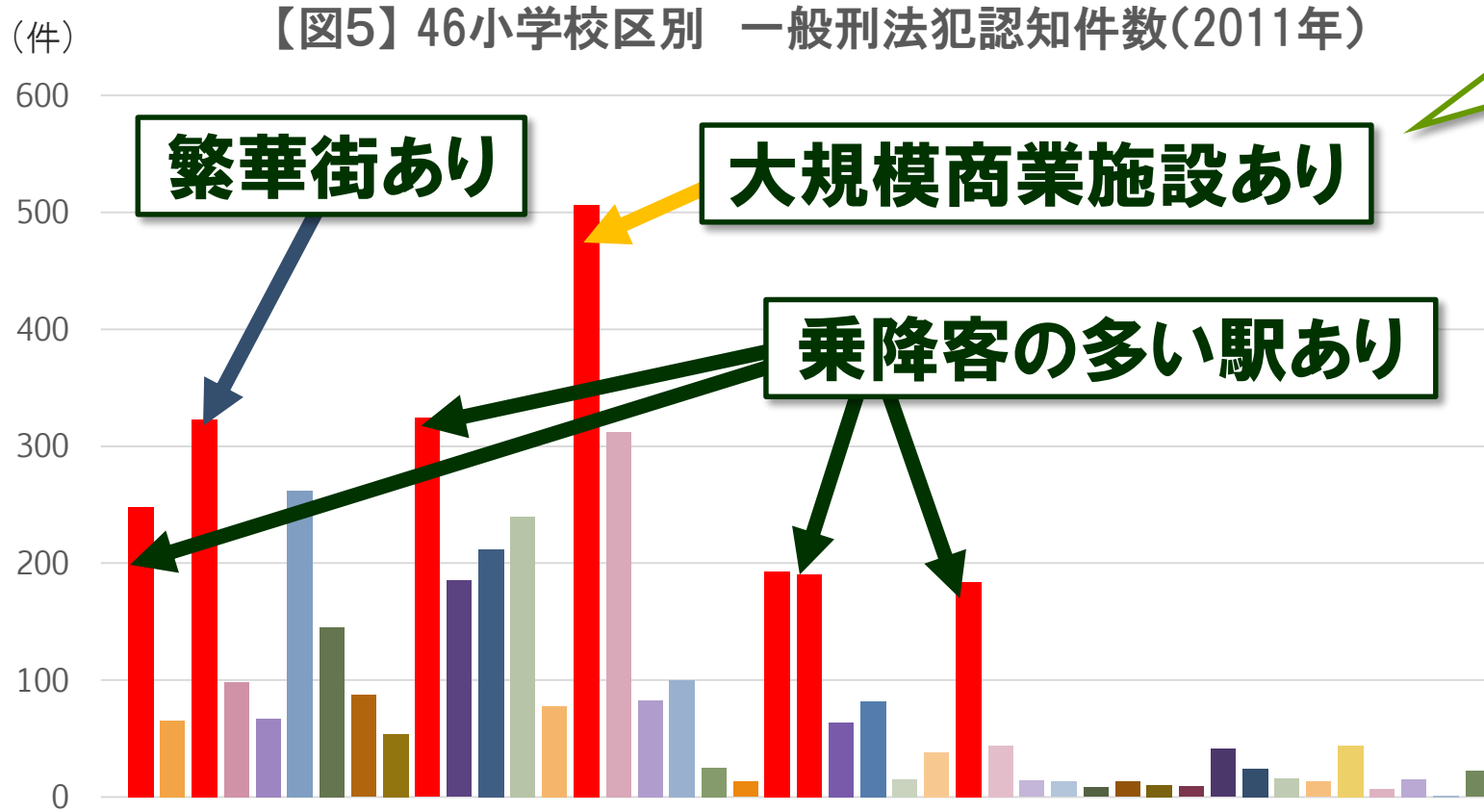
犯罪機会論 ※4

地域での犯罪抑止力が低下



# 3-3.問題の整理（2011年 取り組み開始時）

## 犯罪が多い大型商業施設や駅周辺



<出展:警察統計>

### 3-4-①.問題の整理（2011年 取り組み開始時）

## 市民の不安をあおる暴力団の存在

### 暴力団とは

暴力あるいは暴力的脅迫によって  
自己の私的な目的を達しようとする  
反社会的集団

なかでも、一定の要件を備えた  
反社会性の強い団体：**「指定暴力団」**  
(2017年現在、全国22団体)

2006年  
市内に本拠を置く指定暴力団の  
内部分裂に伴う**抗争が勃発**

特に、2011年以降  
**抗争が活発化・凶悪化**

銃撃や殺傷など**47件の  
抗争事件（死者14名）**

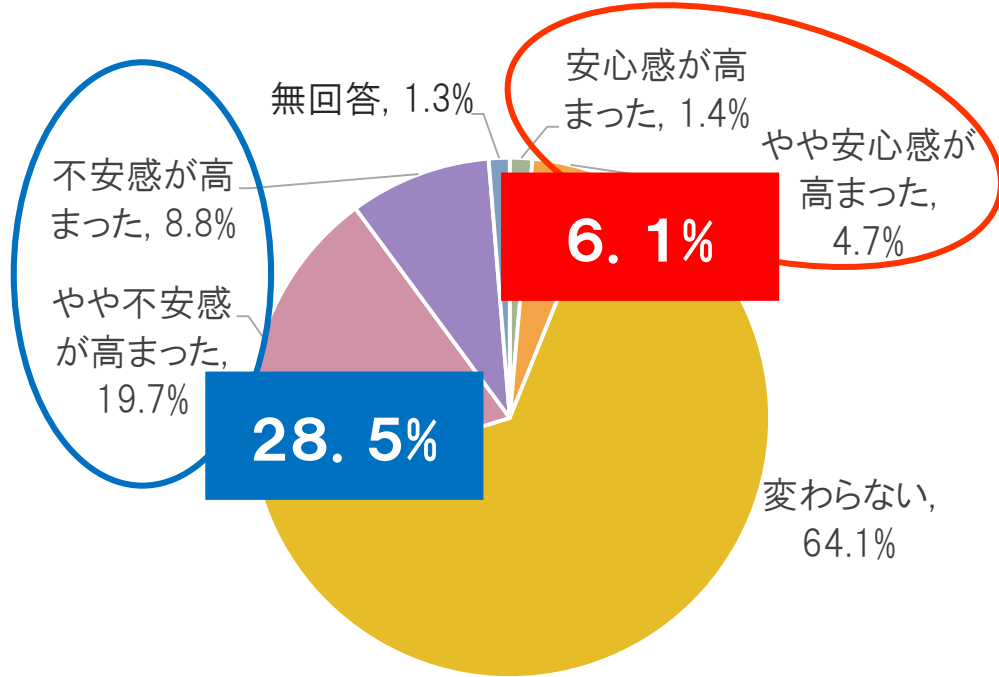
※2013年に抗争終結宣言

# 3-4-②.問題の整理（2011年 取り組み開始時）

## 市民の不安をあおる暴力団の存在

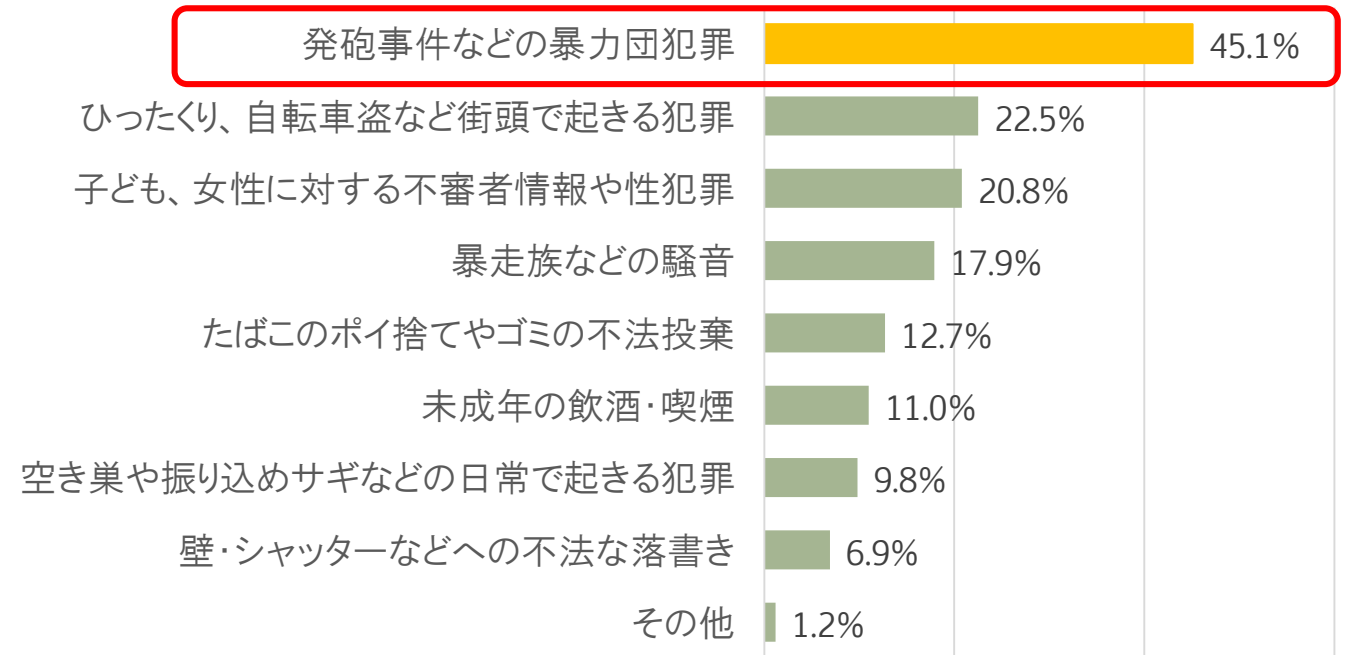
<出展:インターネットアンケート(2012年)>

【図6】犯罪などへの不安感の変化(最近5年)



<出展:市民意識調査(2011年)>

【図7】どのようなことで治安が悪くなったと感じるか



**暴力団の存在**

**市民の体感治安の悪化**

## 4.問題解決のための課題設定（2011年 取り組み開始時）

### 問題

**犯罪の状況（自転車盗が多発）**

軽微な犯罪が凶悪犯罪を誘発する危険

**地域社会の連帯感の希薄化**

地域での犯罪抑止力低下

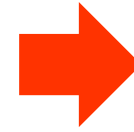
**犯罪が多い大型商業施設や駅周辺**

人の往来が多い場所で多発

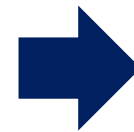
**市民の不安をあおる暴力団の存在**

市民の体感治安の悪化

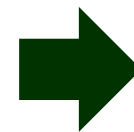
### 課題



**自転車盗の抑止**



**市民・団体との  
連携強化・情報共有**



**犯罪が起きにくい  
防犯に配慮したまちづくり**

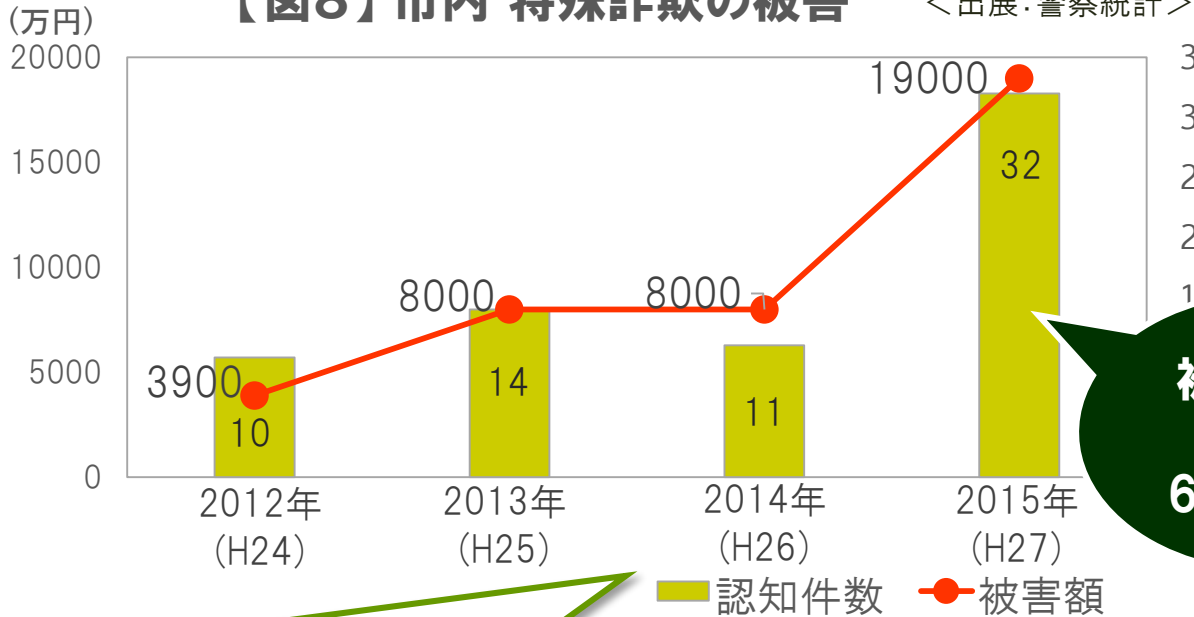


**暴力団の壊滅**

# 5-1. 新たな問題 (2016年 犯罪発生状況の変化)

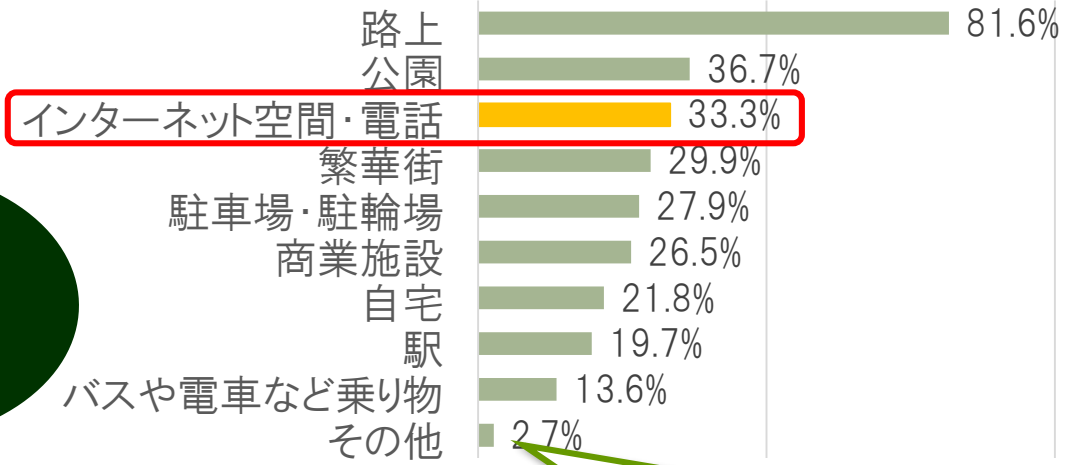
※5

【図8】市内 特殊詐欺の被害 <出展:警察統計>



被害者の  
63%が  
65歳以上

【図9】犯罪に巻き込まれるかもしれないと思う場所 <出展:市政アンケートモニター(2016年)>



主に高齢者を狙った  
**「特殊詐欺」の被害が急激に増加!**

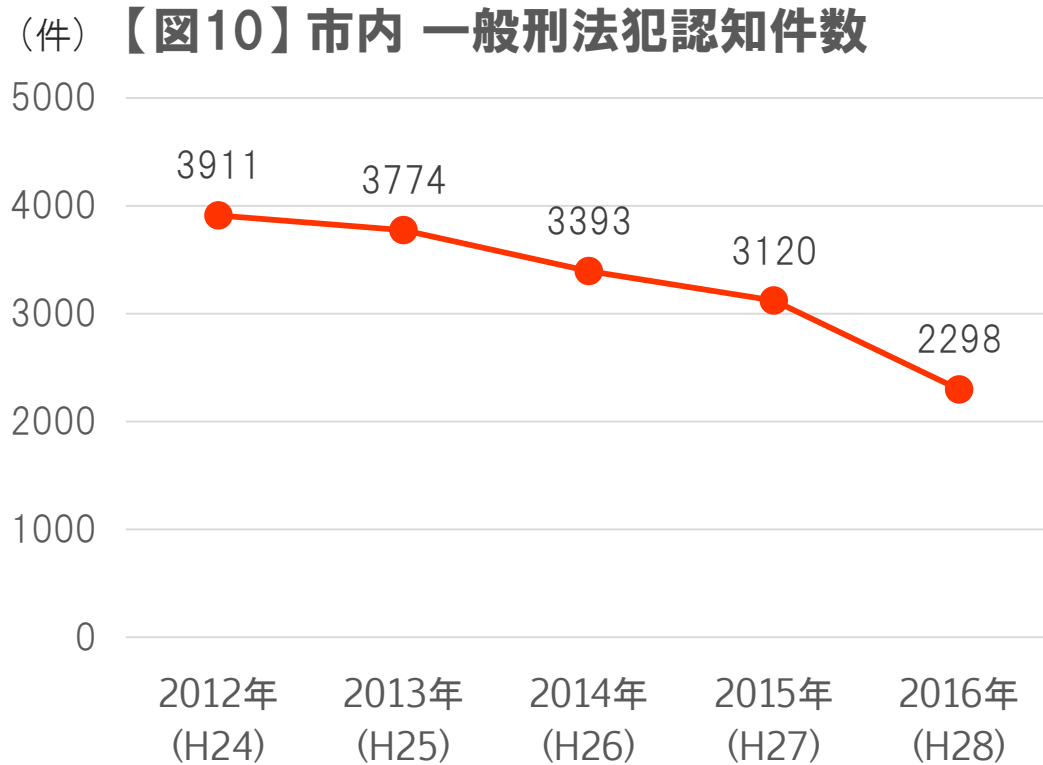
市民は二セ電話やネットを通じた  
詐欺被害などを不安に感じている

- ★ 特殊詐欺の手口は日々変化、巧妙化
- ★ 検挙者の3割以上は暴力団員

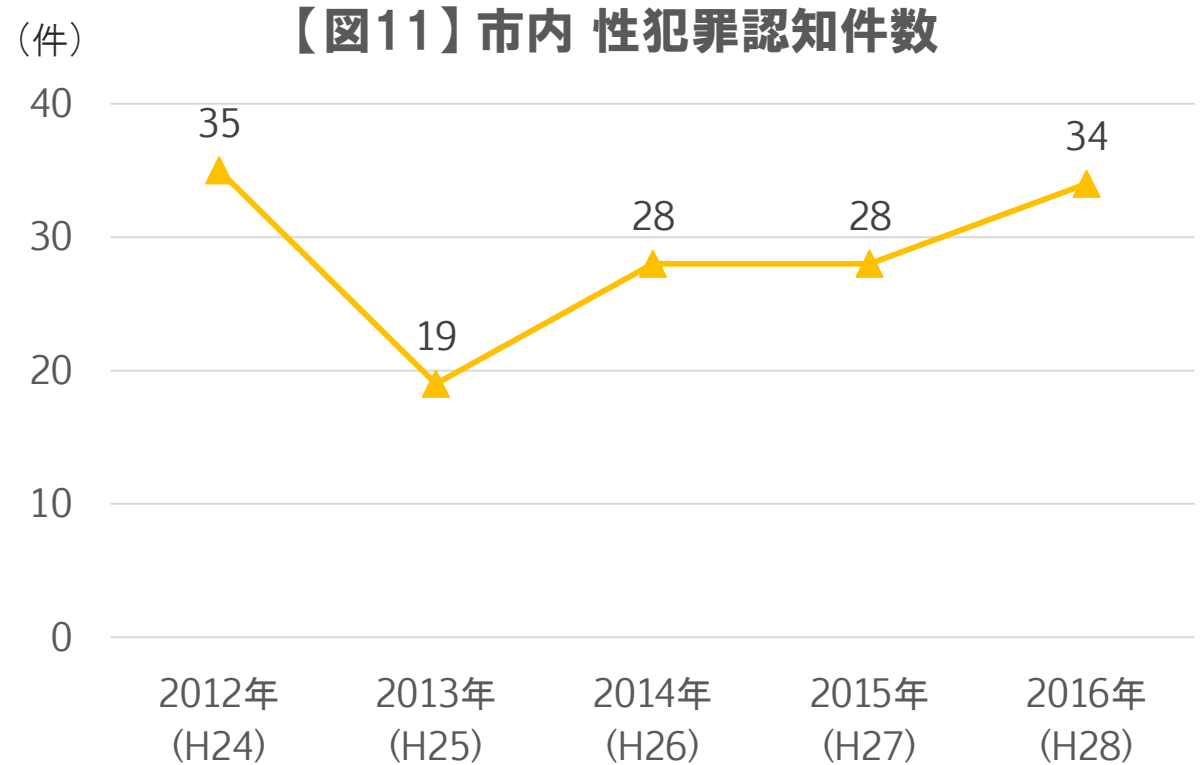
➡ **暴力団の資金源にも!**

## 5-2.新たな問題 (2017年 犯罪発生状況の分析)

<出展:警察統計>



犯罪認知の全体数が減少を続ける一方 …



主に女性を狙った「性犯罪」は減少せず、横ばい～増加傾向

## 6.新たな課題設定（2016年・2017年 取り組み追加）

### 問題

犯罪弱者を狙った犯罪の増加と手口の多様化

高齢者や女性などが、犯罪の被害に遭いやすい傾向（犯罪弱者）  
特殊詐欺に限らず、常に生まれ続ける、新手の犯罪

### 課題

最新の手口や危険な場所、とるべき行動など、犯罪発生状況に応じた情報発信  
啓発強化による犯罪弱者の被害防止

## 7. 課題解決のための方向性と具体的施策

課題	方向性	No.	見直し 追加	具体的施策
自転車盗の抑止	自転車利用者による盗難防止対策	1		自転車ツーロックの推進
市民・団体との連携強化・情報共有	地域防犯活動の活性化	2		犯罪多発地域での合同パトロールの実施
			2017	青パト活動団体の拡大・連携強化（見直し）
防犯に配慮したまちづくり	地域を絞った重点的な取締りと役割に応じた環境整備	3		安全・安心感を高めるための地域環境の整備
暴力団の壊滅	市民総ぐるみによる根気強い暴力追放運動と暴力団への加入防止	4		暴力団壊滅市民総決起大会等の開催
		5		児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施
啓発強化による犯罪弱者の被害防止	犯罪発生状況に応じた情報発信	6	2016 2017	犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発（追加）



## 8. レベル別の対策

課題	対策			
	分類	国県レベル	市レベル	地域レベル
自転車盗の抑止	教育・啓発		街頭キャンペーン、出前講座等	地域にける注意喚起、ツーロックの実践
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備		自転車駐輪場の整備等	
市民・団体との連携強化・情報共有	教育・啓発		出前講座等	自主防犯活動への参加
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備		地域防犯団体への支援等	青パト導入等
防犯に配慮したまちづくり	教育・啓発		出前講座等	自主防犯活動への参加
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備		防犯カメラ設置、地域への支援等	補助制度の活用による環境整備等
暴力団の壊滅	教育・啓発	暴排先生（県警）等	出前講座等	暴力団壊滅、排除運動の実践
	規制	暴対法、県条例による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備			
啓発強化による犯罪弱者の被害防止	教育・啓発		街頭キャンペーン、出前講座等	地域における注意喚起
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備			

# 8. レベル別の対策

課題	対策委員会の役割			対策
自転車盗の抑止	<p><b>関係機関・団体が連携し・・・</b>  <b>防犯対策に関する各レベルの効果を高めるため・・・</b></p> <p><b>★具体的施策の推進、充実</b>            ・キャンペーン、教室、イベント啓発物の作成など</p> <p><b>★情報収集、発信</b>            ・制度改正、犯罪発生状況など</p> <p><b>★セーフコミュニティ理念の周知</b>            ・実践する団体や市民の拡大</p>			地域レベル
市民・団体との連携強化・情報共有				喚起、ツーロックの実践
防犯に配慮したまちづくり				法令順守
暴力団の壊滅				動への参加
啓発強化による犯罪弱者の被害防止				法令順守
教育・啓発	暴排先生（県警）等	出前講座等	暴力団壊滅、排除運動の実践	
規制	暴対法、県条例による	制度の周知	制度の理解、法令順守	
環境整備			活用による環境整備等	
<p><b>市民が犯罪に遭うリスクを減らすことによる</b>  <b>「安全安心のまちづくり」</b></p>				

## 9-1. 具体的施策の紹介・成果

### 自転車ツーロックの推進



学生ボランティアや自転車商組合等も参加  
交通安全対策委員会とも連携して実施

街頭キャンペーンなどにより、  
ツーロックの安全性等を周知  
自転車利用者に実践を促す



## 自転車ツーロックの推進

	活動	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	駐輪場や商業施設などでの啓発活動回数	5回	12回	10回	13回	14回
短期	ツーロックの実践状況【アンケート】		34.4%	48.2%	36.7%	45.1%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合	63.3%	67.2%	71.0%	75.7%	67.7%
長期	自転車盗の認知件数	863件	892件	587件	551件	584件

# 9-2-①. 具体的施策の紹介・成果

## 犯罪多発地域での合同パトロールの実施

★取組み開始時

犯罪の発生が多い地域を重点地区に  
設定し、全市一体となったパトロール



合同パトロールは定着  
自主防犯活動のPR効果も

青パト ※6



## 9-2-③. 具体的施策の紹介・成果

### 青パト活動団体の拡大・連携強化

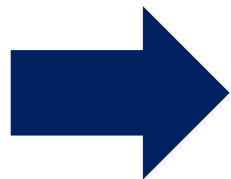
★取り組み見直し

合同パトロールの取り組みを更に効果的にするためには…

地域の日常的・自主的な活動として各団体に定着すること

その基礎となる青パト活動団体の拡大(全校区)を図ることで…

犯罪多発地域だけでなく、市内全域の犯罪を防ぐ



自主防犯団体の育成と青パト導入の支援  
それぞれの団体が連携するきっかけ・機運づくりとして…

市の校区青パト活動支援事業を活用  
警察、防犯協会と連携した地域への働きかけ

## 青パト活動団体の拡大・連携強化

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	青パト活動を行なう校区数 (全46校区中)	16校区	16校区	19校区	24校区	40校区
短期	地域の防犯活動へ 参加したいと思う人の割合		56.0%	63.0%	44.4%	56.2%
中期	合同パトロール関係機関・ 団体数	14団体	16団体	21団体	26団体	46団体
長期	街頭犯罪の認知件数	2,028件	1,902件	1,471件	1,062件	1,141件

## 9-3. 具体的施策の紹介・成果

### 安全・安心感を高めるための地域環境の整備

地域や団体、関係機関が連携  
それぞれの役割に応じた環境整備で  
危険因子を取り除く



街頭防犯カメラ



防犯灯



## 安全・安心感を高めるための地域環境の整備

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	①防犯灯設置費補助件数 (市補助事業)	1,737件	1,758件	1,792件	1,779件	1,639件
活動	②街頭防犯カメラ設置 補助台数 (市補助事業)				10台	15台
短期	この2～3年で治安が 良くなったと思う人の割合	29.4%	47.3%	44.3%	45.1%	45.4%
中期	久留米市は治安が良いと 思う人の割合	63.3%	67.2%	71.0%	75.7%	67.7%
長期	街頭犯罪の認知件数	2,028件	1,902件	1,471件	1,062件	1,141件

## 9-4. 具体的施策の紹介・成果

### 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催

暴力団壊滅市民総決起大会  
毎年6月開催 約1,500人参加



**地域社会全体で暴力団の壊滅を目指す  
小学校区単位での活動など、日常生活に  
根付いた根気強い活動を展開**

総決起大会及びパレード  
毎年12月開催 約2,000人参加



校区での暴追大会、パレード



## 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	
活動	開催数	2回	2回	2回	2回	2回	
短期	参加者数	6月開催	1,300人	1,300人	1,500人	1,500人	1,500人
		12月開催	1,800人	1,800人	2,000人	2,000人	2,000人
中期	暴迫の取り組みを行なっている校区数	36校区	38校区	41校区	42校区	41校区	
長期	市内の暴力団の構成員数	460人	460人	460人	460人	430人	

## 9-5. 具体的施策の紹介・成果

### 児童生徒、青少年への研修や啓発の実施



小学校での防犯講話

中学・高校生のみが対象だった  
暴力団関連の研修・啓発  
対象を小学校高学年に拡大



## 児童生徒、青少年への研修や啓発の実施

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	防犯教育活動を行なった学校数	110校	76校	112校	97校	128校
短期	不良行為少年補導数	6,591人	5,180人	3,752人	4,200人	2,182人
中期	市内の刑法犯少年 検挙・補導数	259人	166人	142人	130人	102人
長期	市内の暴力団の構成員数	460人	460人	460人	460人	430人

## 9-6. 具体的施策の紹介・成果

### 犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発

出前講座や啓発チラシをはじめ、あらゆる機会を通じた情報発信  
被害に遭わないための行動を呼びかけ

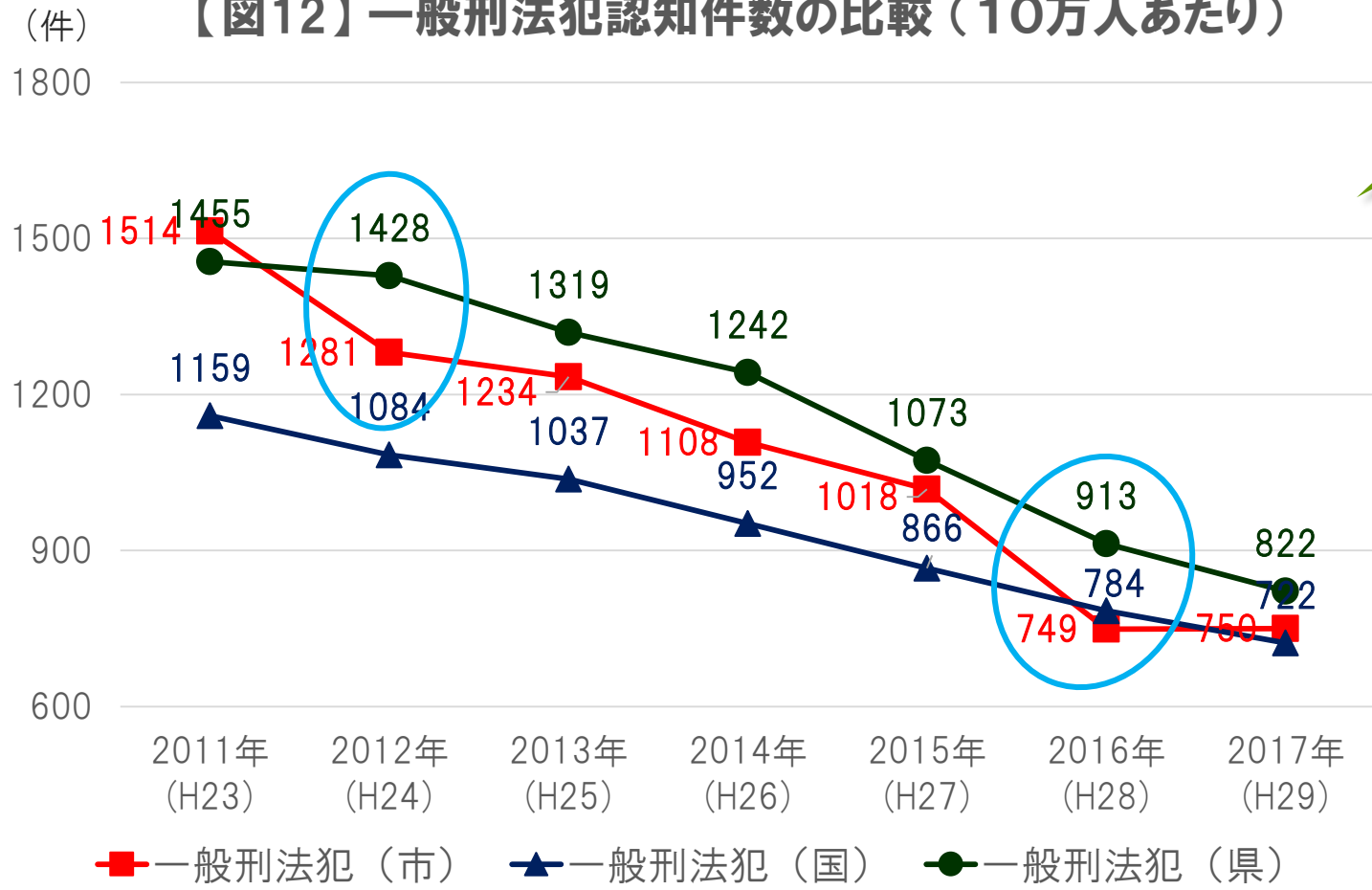


## 犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発

	内容	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
活動	啓発活動・出前講座回数	54回	83回	87回	90回	回
短期	この2～3年で治安が良くなったと思う人の割合	29.4%	47.3%	44.3%	45.1%	45.4%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合	63.3%	67.2%	71.0%	75.7%	67.7%
長期	①特殊詐欺被害件数 (阻止件数)	14件 (-)	11件 (10件)	32件 (38件)	7件 (26件)	26件 (48件)
長期	②性犯罪認知件数	19件	28件	28件	34件	19件

# 10-1. 取り組みによる全体的な成果

【図12】一般刑法犯認知件数の比較（10万人あたり）



<出展: 警察統計>

**一般刑法犯認知件数は減少！**  
2011年（取り組み開始時）の約50%

2012年 県の水準以下に

2016年 国の水準以下に

市内の内訳を見ると…

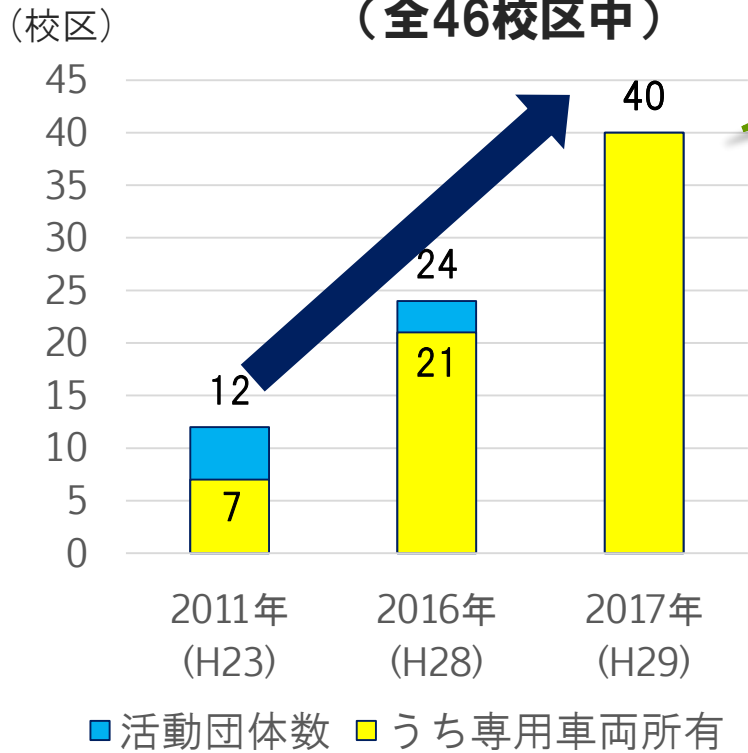
**街頭犯罪認知件数も減少！**  
2011年の約41%

**自転車盗の認知件数も減少！**  
2011年の約53%



# 10-2. 取り組みによる全体的な成果

【図13】青パト活動校区数  
(全46校区中)



取り組み開始以降、活動校区は3倍以上に！  
特に2017年は大幅に増加！



# 11. 2017年10月の事前指導での助言

## 1. 自殺予防対策委員会との連携は（犯罪被害後の自殺）

**例：全国的なケースとして  
ニセ電話詐欺の被害に遭った高齢者が、家族に相談できず、  
自責の念により自殺**

**➡ ゲートキーパー養成講座で事例を周知してもらおうなど、  
連携について検討・調整**

## 2. 取り組みの好成果を市民と共有しては

**現在の啓発活動は、被害の周知や予防方法をメインに周知**

**➡ 同時に、取り組みの成果も発信し、安心感の向上を図る**

# 1 2. 認証取得後の変化・気付き

## 他の対策委員会との連携

### 交通安全対策委員会との連携

夜間防犯パトロール時、歩行者に「反射材」を配布し、夜間歩行中の交通事故を予防



## 多様な協力・支援形態



企業、市民から青パト車両、ドライブレコーダーの寄贈を受け、活動が拡充

老人クラブ連合会など、団体の広報紙等に防犯の啓発記事掲載

… など、多様な協力・支援

## 防犯施策の充実

### 【地域との協働に重点を置いた支援】

地域が自主的に実施する防犯対策への補助などを実施

□ 街頭防犯カメラ設置費補助<2016年新規>

□ 校区青パト活動支援事業<2017年新規>

- ・青パト導入費補助
- ・青パト活動費補助

□ 防犯灯設置費補助<継続事業>

■ キラリ照明灯設置事業<2017年新規>

\*地域が実施する防犯灯設置と連携し、市が照明灯を整備

## 1 3. 今後の目標・課題

目標

### 地域自主防犯団体の活動充実

現在、地域の自主的な防犯活動は広がりを見せているが・・・

➡ 安定的に活動が継続できるかは不透明

課題

青パト専用車両の導入など地域のニーズに応じた支援  
若年層の活動参加など人員体制の強化

目標

### ひとりでも多くの方へ情報発信

現在、街頭キャンペーンや出前講座を中心に啓発しているが・・・

➡ 防犯の情報が伝わっているのは一部の方

課題

啓発のバリエーションをより多く  
団体・地域との連携を深め、あらゆる方面から情報発信

# 用語集

## ※1 一般刑法犯

刑法犯(刑法及び暴力行為等処罰法、組織犯罪処罰法などの法律に規定される犯罪)全体から自動車運転過失致死傷罪など、交通関係の業過(交通事故によって人を死傷させた過失犯)を除いたもの。

## ※2 街頭犯罪

一般刑法犯のなかで、身のまわりで発生しやすい10の犯罪の総称

- ・自転車盗
- ・オートバイ盗
- ・自動車盗
- ・侵入盗
- ・車上狙い
- ・部品狙い
- ・自販機狙い
- ・路上強盗
- ・ひったくり
- ・強制わいせつ

# 用語集

## ※3 割れ窓理論

「1枚の割れたガラスを放置すると、たちまち街全体が荒れ、犯罪が増加」  
軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を  
抑止できるとする、犯罪理論。

## ※4 犯罪機会論

犯罪の発生は、犯罪の機会（犯罪が成功しそうな状況・雰囲気）があつて  
はじめて実行される。  
犯罪が成功しそうな雰囲気を醸し出す場所（入りやすく、見えにくい場所）  
を減らすことで、犯罪を未然に防止しようとする考え方。

# 用語集

## ※5 特殊詐欺

面識のない不特定多数の者に対し、電話やメールなどの通信手段により対面することなく、被害者から現金をだまし取る詐欺。

4種類の「振り込め詐欺」のほか、それに類似する多くの手口が存在する。

【振り込め詐欺】

- **オレオレ詐欺**

親族や警察官等を装い、金銭借用や被害防止のためと称して、銀行口座に振り込ませるもの。最近では、被害者と対面して、現金やキャッシュカードなどを受け取る手口も見られる。

- **還付金詐欺**

税金や医療費などの還付を装うもの。

- **架空請求詐欺**

郵便や電子メールなどにより、架空の事実を口実とした料金請求文書を送付するもの。

- **融資保証金詐欺**

実際に融資する意思がないにもかかわらず、融資する旨の文書等を送付して、保証金等の名目で現金を振り込ませるもの。

# 用語集

## ※6 青パト

青色の回転灯を装備したパトロール車。  
主に地域のボランティアを中心とした自主防犯団体により運行される。  
一般車両への回転灯装備は法令で禁止されているが、全国の犯罪認知件数が2002年・2003年に戦後最多となり、自主防犯パトロールの機運が高まったことから、2004年に規制が緩和され、警察から適正にパトロールを行うことができると証明を受けた団体については、青色の回転灯を装備した公道走行が可能になった。  
夜間の地域巡回や登下校時における子どもの見守り、犯罪多発エリアの警戒など、地域の実情に応じたパトロールに活用されている。